天理ギャラリー・第五回展

古代中国の明器と土偶

東京天理教館

■古代中国の明器と土偶展・6月1日―8月31日

■天理ギャラリー・東京都千代田区神田錦町1の9 東京天理教館 9階

中国古明器土偶の展望

人はいにしえより，死後においてもその魂は永遠の生活を続けるものであると信じ，あの世の生活に必要な様々な食器や利器などを墓中に副葬した。これはほとんど多くの種族に古来一般に行なわれた現象であって，東亜における最も古い歴史を誇る中国では数千年の昔にさかのぼる史前時代から，こうした風習が見られ，特に歴史時代にはいってからは漢民族の文化が発展して封建国家が樹立されると，支配者を中心として規模壮大な墳墓が造営され，副葬品の種類や数量はいちじるしく増加して，いわゆる厚葬の制の頂点に達するに至った。その状況はあたかもナイル河畔に文化の華を咲かせたエジプトの墳墓にも比肩されるほどの豪華絢爛たる副葬品によって充たされ，侍使，奴婢の殉死さえ行なわれた。秦始皇帝の驪山陵が項羽によってあばかれた時，副葬された珍宝奇器は30万人の賊徒によって搬出され，30日に及んでも尽きなかったと伝えられている。誇張された記事ではあろうが，もってその厚葬の状況を示すものと云えよう。くだって漢代でも，続漢書に記載される天子の陵の副葬品は，制定にしたがって飲食器，楽器，武器など42種197点，塗車9乗，人物などの象形土偶36点と記載されている。実際わが国の学者によって発掘調査された北朝鮮の漢楽浪郡の古墳の内容に徴しても，その副葬品の豊富にして種類が多岐にわたり，しかもそれらの副葬品がいずれも美術的価値のすぐれたものであったことを思えば，当時中原に君臨した王者の陵墓などの副葬品がいかにおびただしく豪華なものであったかを想像することができよう。

さて中国ではかかる墳墓の副葬器物を古来「明器」と呼んでいる。明器とは孔子の解釈ではあの世において使用される器を指し，神明の器と言う意味で，常人が使用する器を実器とすれば，明器は仮器であり凶器であるとしている。したがって明器の類は葬送のために特に製作された仮器，即ち模型的なものと解する向きもあるが，実際考古学的発掘を経た中国古墳墓の内容から見ると，副葬品の大部分は実器が多く，建築物や人物，馬匹，家畜などに仮器に類する模型的な土偶や木偶などが見られるのみであって，前漢末と思われる楽浪郡の王盱墓によって代表される竪穴式木槨墳の例について見て

11. 漢代　灰陶加彩　侍女立像
高　28.0糎

12. 漢代　灰陶加彩　侍女立像
高　24.8糎

も，副葬品のすべては実器のみで，それよりも時代のくだる横穴式木槨墳――これは昭和6年に発掘された彩篋塚によって代表される――において初めて木馬，衣服を着せた木偶，車輿などの明器が発見された。特に木馬のごときは汗血馬を写実的に刻出したもので，たて髪や尻尾には真毛を植え，轡，手綱，馬帯などまで具備したものであった。

こうした仮器明器の類は，この種の墳墓に続く塼槨墳の盛行期にはいって更にその数を増して，飲食器や犬，鳥，豚，或は燈架，井戸などの象形明器まで副葬され，緑釉をかけた明器類も初めて登場するのであるが，その年代は紀年銘の塼が多数に発見されるのでほぼ後漢から西晉にかけての頃と見て差しつかえはない。この事実は中原を遠く離れた辺境の一郡県の示す現象であるから，多少のずれはあるにしても，中国本土における明器土偶を盛行に導く時期を示唆するものであると言えよう。

さて中国では戦国時代にさかのぼって，すでに木偶や土偶などの明器の萌芽が認められる。1953年から7年にかけて発掘された湖南省長沙や，河南省洛陽などの附近の古墳の出土品に，銀，銅，鉛製の人像と共に，かなり多くの木偶と土偶の明器が発見された。まず木偶について見ると，極めて素朴な手法により男女の姿態を刻出したもので，一刀彫的な鋭い刀痕を残して，おおまかな技巧の中にも男女の特徴をとらえているが，様式としては稚拙の一語につきよう。中には衣紋に彩色を加えたものや，衣服を着せた痕跡を止めるものがあり，少数ではあるが同様の土偶も発見されている。この種の土偶とは別に「黒陶俑」の名の下に世人の関心を集めた小形の土偶がある。これは主として山西省長治市や河南省輝県から出土した大きさ 5，6 糎程度の小形のもので，舞踊する女や男女の立坐像，馬など，前記の木偶などに比して極めて動的な表現が試みられている。質は黒色の素焼を磨研して漆のごとき色沢を出し，顔面，手などに朱彩が施されている。

これらの戦国時代の少数の木偶や土偶に比べると，漢代以後の明器土偶の類は俄然増加する。これは前記楽浪古墳の実例にも一致する現象であって，前代には見られなかった家屋，楼閣，倉庫，猪圏，井戸などの建築物や，男女の姿や馬，牛，犬，豚，鳥など，家畜の

土偶が圧倒的に増加し，さながら当時の人々の生活環境を眼のあたりに見る感がある。しかもその技巧は次第に巧妙となり，造像技法の発展によって極めて写実的となって，これが南北朝から隋唐の時代になると，益々その真髄を発揮することになるのである。素焼のものには墨，朱，丹，青，緑などの顔料をもって彩色を加え，緑，褐の釉薬を施したものも次第にその数が増加する。こうした加彩や施釉の明器は，すでに漢代に行なわれているが，これはこの頃の明器の胎土が黝黒色のものが多く，加彩をするにしても白土の地塗を施した上に彩色を加え，施釉するにしても或る程度の化粧下地を必要としたが，隋唐時代になると胎土に白く焼成される原料を用いるようになったために，俄然施釉にも光彩が加わり，終に豪華絢爛たる唐代特有の三彩陶器を生み出すに至った。

こうした造像の手法や彩色，施釉の技法の進歩は，漢民族の文化の進展にともなって起こったもので，これには漢民族の勢力の発展にともなう外来文化との接触，特に後漢以来開拓された西域路を通じての西方文化との交流が大いにあずかって力があったことは云うまでもない。漢代以来の馬像に見られる汗血馬の姿や，南北朝の男女土偶の体軀のプロポーション，衣紋のひだの流れなどは北魏の仏像彫刻に見られるヘレニズムの反映と見ることができるであろうし，唐代土偶に見る胡服の男女像或いは胡姫の舞踊像や駱駝にのった胡人像などは，まさに西域交通を如実に物語るものである。

唐三彩の華麗な焼物が盛行したのは盛唐の頃と云われているが，その器形の中には鳳首竜把の壺や角坏，扁壺，或いは三脚の花盤のごとき異国情緒豊かなものもあって，それらを飾る宝相華紋や唐草などの文様と共に，西域との連鎖を見のがすことはできない。こうした雰囲気の中に醸成されたものが唐三彩であると云えよう。漢代以後ようやく盛んとなった越州窯などの単色釉を見慣れた唐代の人々は，二彩或いは三彩などの陶器の出現に眼を見張ると共に，西域調の色彩豊かな生活環境に歓喜してこれを受け入れたことは云うまでもない。そして，当然の結果として，この施釉技法は副葬土偶の上にも及び，顔面を除く男女の衣装を美しい三彩の釉色をもって彩り，誕馬の飾りにもこれを用いて，世界に類を見ない陶製土偶を作り出したのである。

（小泉顕夫）

13. 漢代緑釉　坐像
高　15.4糎

1. 戦国　木製　立像　湖南省長沙出土
高　45.0糎

2. 戦国　黒陶　舞妓　河南省輝県出土
高　6.0糎

3. 戦国　灰陶　立像　湖南省長沙出土
高　29.5糎

4. 戦国　紅陶　舞妓　湖南省長沙出土
高　10.0糎，高10.0糎

5. 漢代　灰陶　武人(方相)
高　39.8糎

6. 漢代　灰陶加彩　女子立像
高　45.6糎

7. 漢代　灰陶加彩　鞍馬
高　35.0糎

8. 9. 10. 漢代　灰陶加彩　坐像　高　17.0糎・17.2糎・16.6糎

15. 漢代　灰陶印文　井戸
高　33.0糎

14. 漢代　緑釉　楼閣
高　130.3糎

16. 漢代　緑釉　家屋
高　50.8糎

17. 漢代　緑釉　猪圏(豚小屋)
径　24.5糎

18. 漢代　緑釉　庖人（料理人）
高　27.7糎

19. 漢代　緑釉　薫炉
高　42.0糎

20. 漢代　緑釉　盤
径　39.6糎

21. 漢代　緑釉　鳳凰の燭台
高　51.5糎

22. 漢代　灰陶・緑釉　匕　高　12.1糎・10糎

23. 漢代　緑釉・灰陶　耳杯　長径13.2糎・14.5糎

24. 六朝　灰陶加彩
駱駝の胡人
高　22.8糎

28. 六朝　古越磁　竈　　高　9.8糎

29. 六朝　古越磁　猪圏（豚小屋）　　径　12.8糎

25. 六朝　灰陶加彩　男女立像
高　16.4糎・16.0糎

26. 六朝　灰陶　首をかく犬
高　9.0糎

27. 六朝　灰陶加彩　飾馬
高　23.9糎

30. 唐代　紅胎加彩　婦人立像
高　64.8糎

31. 唐代　白胎加彩　鷹匠
高　41.3糎

32. 唐代　紅胎加彩
馬に乗らんとする男
高　28.8糎

33. 唐代　黄白釉加彩　牛車
高　34.0糎

34. 唐代　三彩　瓣口竜把手の壺
高　33.0糎

35. 唐代　三彩　六葉形花足大盤
径　35.3糎

36. 唐代　三彩　誕馬
高　62.0糎

37. 唐代　三彩　文官立像
高　85.2糎

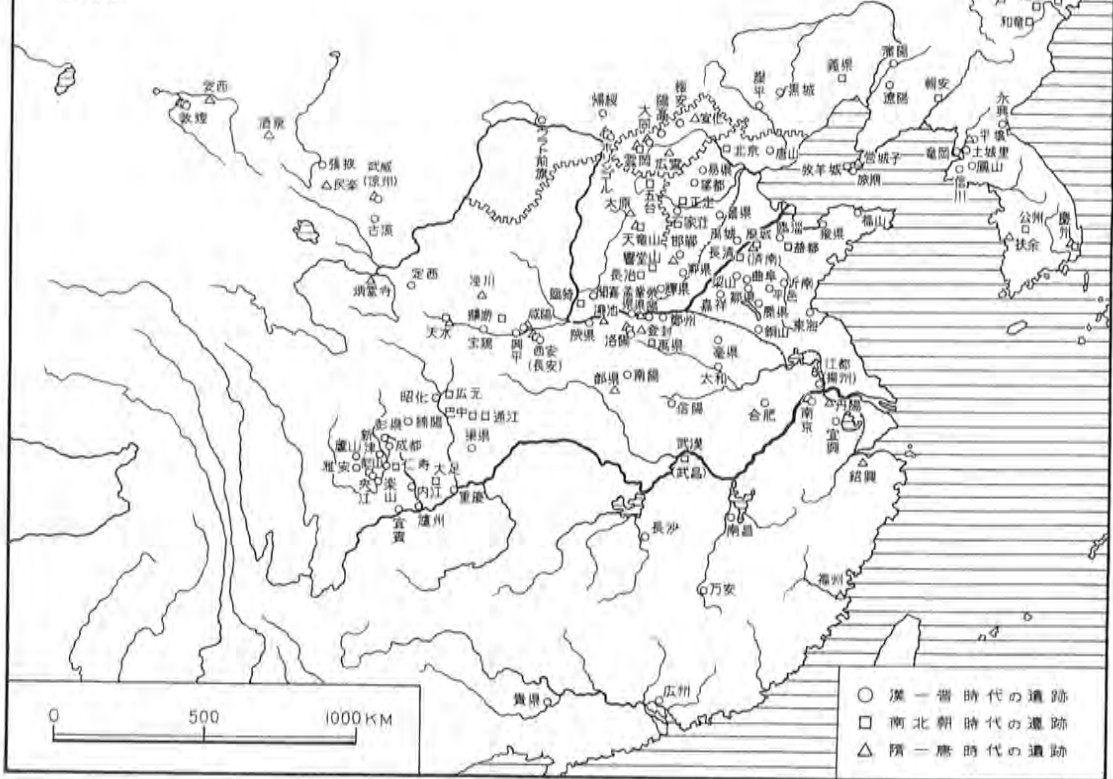
1. 戦国　木製　立像　湖南省長沙出土	高	45.0糎
2. 戦国　黒陶　舞妓　河南省輝県出土	高	6.0糎
3. 戦国　灰陶　立像　湖南省長沙出土	高	29.5糎
4. 戦国　紅陶　舞妓　湖南省長沙出土	高	10.0糎
5. 漢代　灰陶　武人（方相）	高	39.8糎
6. 漢代　灰陶加彩　女子立像	高	45.6糎
7. 漢代　灰陶加彩　鞍馬	高	35.0糎
8. 漢代　灰陶加彩　坐像	高	17.0糎
9. 漢代　灰陶加彩　坐像	高	17.2糎
10. 漢代　灰陶加彩　坐像	高	16.6糎
11. 漢代　灰陶加彩　侍女立像	高	28.0糎
12. 漢代　灰陶加彩　侍女立像	高	24.8糎
13. 漢代　緑釉　坐像	高	15.4糎
14. 漢代　緑釉　楼閣	高	130.3糎
15. 漢代　灰陶印文　井戸	高	33.0糎
16. 漢代　緑釉　家屋	高	50.8糎
17. 漢代　緑釉　猪圏（豚小屋）	径	24.5糎
18. 漢代　緑釉　庖人（料理人）	高	27.7糎
19. 漢代　緑釉　薫炉	高	42.0糎
20. 漢代　緑釉　盤	径	39.6糎
21. 漢代　緑釉　鳳凰の燭台	高	51.5糎
22. 漢代　灰陶・緑釉　匕	高	12.1糎・10.0糎
23. 漢代　緑釉・灰陶　耳杯	長径	13.2糎・14.5糎
24. 六朝　灰陶加彩　駱駝の胡人	高	22.8糎
25. 六朝　灰陶加彩　男女立像	高	16.4糎・16.0糎
26. 六朝　灰陶　首をかく犬	高	9.0糎
27. 六朝　灰陶加彩　飾馬	高	23.9糎
28. 六朝　古越磁　竈	高	9.8糎
29. 六朝　古越磁　猪圏（豚小屋）	径	12.8糎
30. 唐代　紅胎加彩　婦人立像	高	64.8糎
31. 唐代　白胎加彩　鷹匠	高	41.3糎
32. 唐代　紅胎加彩　馬に乗らんとする男	高	28.8糎
33. 唐代　黄白釉加彩　牛車	高	34.0糎
34. 唐代　三彩　瓣口竜把手の壺	高	33.0糎
35. 唐代　三彩　六葉花足大盤	径	35.3糎
36. 唐代　三彩　誕馬	高	62.0糎
37. 唐代　三彩　文官立像	高	85.2糎
裏表紙　漢代　緑釉　博山炉	高	21.0糎

LIST

1.	Human figure, wood. Ch'ang-sha, Hunan. Warring-states.	H. 45.0 cm
2.	Female dancer, black pottery. Hui-hsien, Honan Warring-states.	H. 6.0 cm
3.	Standing man, grey pottery. Ch'ang-sha, Hunan. Warring-states.	H. 29.5 cm
4.	Dancers, red pottery. Ch'ang-sha, Hunan. Warring-states.	H. 10.0 cm
5.	Warrior, grey pottery. Han.	H. 39.8 cm
6.	Standing woman, painted grey pottery. Han.	H. 45.6 cm
7.	Saddled horse, painted grey pottery. Han.	H. 35.0 cm
8.	Sitting figure, painted grey pottery. Han.	H. 17.0 cm
9.	Sitting figure, painted grey pottery. Han.	H. 17.2 cm
10.	Sitting figure, painted grey pottery. Han.	H. 16.6 cm
11.	Standing woman, painted grey pottery. Han.	H. 28.0 cm
12.	Standing woman, painted grey pottery. Han.	H. 24.8 cm
13.	Sitting figure, green glazed pottery. Han.	H. 15.4 cm
14.	Model tower, green glazed pottery. Han.	H.130.3 cm
15.	Model draw-well, grey pottery. Han.	H. 33.0 cm
16.	Model house, green glazed pottery. Han.	H. 50.8 cm
17.	Model piggery, green glazed pottery. Han.	D. 24.5 cm
18.	Figure of a cook, green glazed pottery. Han.	H. 27.7 cm
19.	Tiered censer, green glazed pottery. Han.	H. 42.0 cm
20.	Model tray, green glazed pottery. Han.	D. 39.6 cm
21.	Phoenix lamp-stand, green glazed pottery. Han.	H. 51.5 cm
22.	Ladles (grey and green glazed pottery).	H. 12.1 cm · 10.0 cm
23.	Oval-cups (green glazed and grey pottery).	L. 13.2 cm · 14.5 cm
24.	Turk on camel, painted grey pottery. Six Dynasties.	H. 22. 8cm
25.	Standing figures, painted grey pottery. Six Dynasties.	H. 16.4 cm, 16.0 cm
26.	Scratching dog, grey pottery. Six Dynasties.	H. 9.0 cm
27.	Caparisoned horse, painted grey pottery. Six Dynasties.	H. 23.9 cm
28.	Model kitchen stove, *Yüeh* ware. Six Dynasties.	H. 9.8 cm
29.	Model piggery, *Yüeh* ware. Six Dynasties.	D. 12.8 cm
30.	Standing woman, painted red pottery. T'ang.	H. 64.8 cm
31.	Falconer, painted white pottery. T'ang.	H. 41.3 cm
32.	Horse and rider, painted red pottery. T'ang.	H. 28.8 cm
33.	Bullock-drawn cart, cream glazed pottery. T'ang.	H. 34.0 cm
34.	Ewer with dragon shaped handle, three coloured glaze. T'ang.	H. 33.0 cm
35.	Six lobed tray with three feet, three coloured glaze. T'ang.	D. 35.3 cm
36.	Saddled horse, three coloured glaze. T'ang.	H. 62.0 cm
37.	Civil officer, three coloured glaze. T'ang.	H. 85.2 cm
cover.	"HILL" censer, green glazed pottery. Han.	H. 21.0 cm

漢—唐時代の遺跡

0　500　1000KM

○ 漢—晋時代の遺跡
□ 南北朝時代の遺跡
△ 隋—唐時代の遺跡

中国・日本・朝鮮対照年表

日本	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥〜奈良	平安時代	鎌倉

朝鮮	南山期	楽浪期	三国時代	新羅	高麗

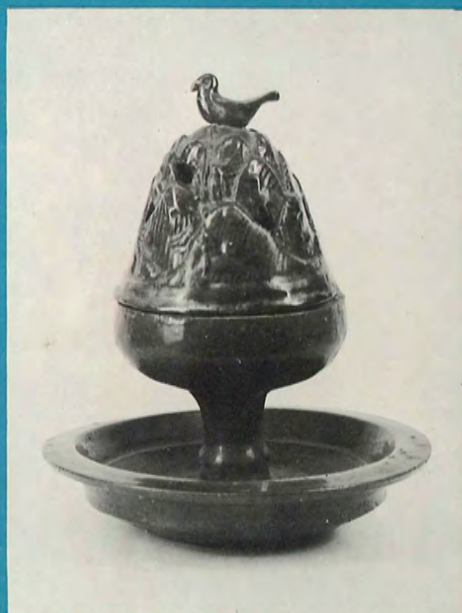
中国	殷	西周	春秋	戦国	秦	前漢	後漢	三国	西晋	東晋	五胡十六国	北魏	宋斉梁陳	隋	唐	五代	遼	金	元
			（東周）					六朝時代									（北宋）	（南宋）	
																	宋		

	1000	500	紀元	500	1000

発行　東京都千代田区神田錦町1の9　天理ギャラリー
● 昭和38年6月1日 ●
印刷　奈良県天理市川原城町　天理時報社

EXHIBITION OF BURIAL CLAY FIGURES OF ANCIENT CHINA

IN

TENRI UNIVERSITY MUSEUM

1963

TENRI GALLERY
TOKYO